第３期西東京市子ども・若者ワイワイプラン令和７年度取組実績（重点②）

資料６

## 【基本方針1】 子どもの主体的な参加ですすめる

### 1−1 子どもの権利の尊重

| | 施策・事業名 | 内容 | 子どもの評価（報告書から抜粋したまとめ） | 若者の評価（報告書から抜粋したまとめ） | 専門部会からのコメント（案） |
|---|---|---|---|---|---|
| 2 | ＜重点的な取組②＞<br><br>**子ども・若者の意見表明の機会の充実** | アンケート調査やヒアリング調査、意見交換会等子ども・若者の意見を聞く場を設ける。<br>子ども・若者の意見を市の取組に反映することに努め、反映した内容などを子ども・若者に伝え、共有する。 | 【良かったところ】<br>(1)子どもの意見を聴く市の取組について<br>・子どもの意見を取り入れ、反映させようと努力してくれる。<br>・良いところや改善したいことを話合える、テーマを毎年変えて飽きないようにしている。 2件<br>・話しやすい環境（丁寧に話してくれる、一対一ではなく複数人である、落ち着いている、話し合いをサポートしてくれる人がいる）。 4件<br>・学校の先生も話しを聞いてくれた。<br>・参加する人数を増やすための考えがある。<br>・市から返事があって、意見がどうなったかがわかった。<br>・市長が直接来て質問に答えてくれるのは、本当に意見が反映されているかという不安がなくなる。<br><br>(2)広報・周知について<br>HPもしっかり作られていて、行きたいという気持ちになる。<br><br>【改善するとよいところ】<br>(1)子どもの意見を聴く市の取組について<br>・一部の学校だけではなく、複数の学校でも意見を聞いてほしい。<br>・市の計画を定期的に早い頻度で見直して、子どもの意見がさらに早く反映されると良い。<br>・定期的に自分の考えを伝える機会がほしい。<br>・意見に対する返事の内容は、事業に参加した子どもだけでなく、参加しなかった子どもにも伝えてほしい（市HP掲載、メールなど）。 2件<br>・説明されるよりも質問される方が意見を言いやすい。<br>・説明の中にゲームやクイズを入れてほしい。<br>・資料は説明を全てQRコードにするのではなく、1ページに簡単に例を書いたりまとめてほしい。 2件<br>・家で自分の意見を考えるだけでなく、その場で考える時間がほしい。<br>・参加賞があると色んな人が参加しやすい。<br>・泊まりがけの活動があった方が参加しやすい。<br><br>(2)広報・周知について<br>・一部の学校だけでなく、タブレット上に市の課題を載せて共有できると、多くの人に知ってもらえる。<br>・市の企画はあまり知られていないため、広報方法を見直した方が良い<br>（SNSや公式アプリなどを利用）。 2件<br>・ポスターやYouTube動画があるとわかりやすい。<br>・お知らせが、市内在住でも市外に通学していると届かないのでお知らせしてほしい。 | 【良かったところ】<br>(1)意見聴取・意見反映<br>・中高生など、事業に関係の深い対象者から意見を集めていた。<br>・事前課題やワークショップにより、意見を出しやすい環境が整えられていた。<br>・アンケート等を通じて幅広い意見を収集していた。<br>・意見交換や発表の機会があり、意見を深めることができていた。<br>・意見を聴くだけでなく、フィードバックを行っていた。<br><br>(2)広報・周知<br>・動画を活用した発信を行っていた。<br>・若者目線で作成したチラシや大学生による広報物が工夫されていた。<br>・写真を使用するなど、視覚的に分かりやすい報告書により興味を引く工夫があった。<br>・VRなど若者の関心を引く要素を取り入れていた。<br><br>(3)事業の影響確認<br>・フィードバックを行い、参加後のつながりを意識していた。<br>・タブレットなど若者に親しみやすいツールを活用していた。<br>・数値だけでなく、行動や表情などの変化も確認していた。<br>・市長からの手紙により、市政との関わりや参加意欲の向上につながっていた。<br><br>【改善するとよいところ】<br>(1)意見聴取・意見反映<br>・保護者や関係者など、多様な立場の意見も取り入れる。<br>・意見を聴く人数を増やし、より多様な意見を集める。<br>・意見を言った会議後にも、意見を提出できる仕組みを設ける。<br>・デジタルツールなど複数の方法で意見を収集する。<br>・市から市民への一方向だけでなく、双方向のフィードバックを充実させる。<br><br>(2)広報・周知<br>・市報、学校、SNS、動画など媒体ごとの特性を生かす。<br>・対象年齢に応じた表現やデザインを工夫する（子ども向けには、塗り絵できるようなチラシデザインにする　など）。<br>・子ども本人だけでなく保護者にも周知する。<br>・Instagram、X、TikTokなどSNSを積極的に活用する。<br>・意見がどのように反映されたかを分かりやすく発信する。<br><br>(3)事業の影響確認<br>・事業前後の変化を数値で把握する。<br>・継続的なアンケートや調査を実施する。<br>・意見を○×で示したり、シールで回答するなど、気軽なアンケート方法も取り入れるとよい。<br>・多くの人に参加してもらうことが効果検証には必要なので、参加しやすい仕組みや環境づくりを進める（食事イベント、参加のお礼グッズ配布、個人宛メール、動画での案内、トークイベントなど） | 【良かった点】<br>(1) 意見表明の場の設定・参加機会の確保<br>・ワイワイトーク、若者ミーティング、アンケートなど子ども・若者が意見を表明できる場を複数設けており、参加機会が確保されている。<br>・子ども・若者からは、市の取組を知ったり、意見表明ができることに充実感を持っていた。<br><br>(2)施策への意見反映<br>・子ども・若者ともに、自分の意見が施策に反映されることを高く評価していた。<br><br>【改善点】<br>(1)広報の工夫<br>・事業の影響確認という点からも、より多くの子ども・若者の参加が欠かせないが、広報・周知が十分ではなかった。市としてすでに実施されている広報も多くあり、周知されていない部分についてはさらに広報の仕方について工夫が必要である。<br>・市のさまざまな子ども・若者の取組の「見える化」にさらに努める必要がある。 |

【各課事業内容の個別表】

| 各課事業番号 | 担当課 | (1)各課事業内容 | (2)子ども(・若者)の視点での取組予定 | (3)令和7年度事業取組実績 | (4)令和7年度　子ども(・若者)の視点での取組実績 | (5)令和7年度実績の自己評価 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 計画開始年度(令和7年度)時点の事業内容 | A:事業実施にあたり、子ども・若者の意見を取り入れたり反映する予定があるか<br>B:子ども・若者に事業を知ってもらうために、広報・周知をどのように行う予定か<br>C:この事業を行うことによる子ども・若者への影響をどのように確認するか | 各課事業内容の実施詳細を記載 | A:事業実施にあたり、子ども・若者の意見をどのように聞き、反映したか<br>B:子ども・若者に事業を知ってもらうために、広報・周知をどのように行ったか<br>C:この事業を行うことによる子ども・若者への影響をどのように確認したか | 「◎」:予算の新規計上、拡充、子ども・若者の意見を反映させた事業実施ができた<br>「○」:予定どおり実施できた<br>「△」:予定していた一部が実施(達成)できた<br>「×」:実施しなかった<br>「―」:当該年度に事業予定なし |
| 1 | 子ども若者応援課 | ①ワイワイトーク（子ども会議）を実施し、子どもに関する市の施策について、子どもからの意見（評価）を聞く場を設ける。<br><br>②「子ども施策に対する子どもの意見を得るための手引」の改訂をする。また手引に基づき、職員を対象とした研修を実施し、各課が子どもの意見を得る機会を設ける際の参考にしてもらう。 | A：ワイワイトークでは、昨年度の意見を参考に今年度も開催し、日程を３日間から２日間へ短縮した。 | ①小４～18歳までを対象にしたワイワイトークを実施し、市の４つの取組（児童館、公園、公民館、図書館）に対する意見をグループで共有し、グループとして２つの取組を選び、良いところと改善点の意見をまとめた。また児童館での出張ワイワイトークも行い、より多くの子どもたちの意見を聞くことができた。<br>実施時期：７月27日（日）、８月２日（土）<br>ワイワイトーク参加人数：小学生５人、中学生４人、高校生２人、大学生31人<br>出張ワイワイトーク参加者：65人（子ども61人、保護者４人<br><br>■市HP（最終更新日 2026年6月18日）<br>https://www.city.nishitokyo.lg.jp/event/kids_oyakomuke/waiwaitalk_sankashaboshu.html | A：ワイワイトークでは日程を３日間に短縮した。ワイワイトーク・出張ワイワイトークで受けた子どもの意見に対して各課からのフィードバックを行い、反映可能な内容については反映した。<br>反映結果は別紙参照。 | ◎ |
| | | | B：市報、市SNSでの広報の他に、市立小・中学校、ASTA、及び市内高校へのポスター掲示・チラシ配付依頼など、多くの子どもに募集を認識してもらえるような広報を行った。 | ②「子ども施策に対する子どもの意見を得るための手引」を改訂した。また手引に基づき、主任・主事級職員を対象とした研修を実施し子どもの意見表明についての理解を深めた。<br>受講者：37人<br><br>■市HP<br>なし<br><br>③庁内職員への子どもの意見表明の理解促進のため、子ども条例と子どもの意見表明に関するEラーニング研修を実施。受講者数：1,538人<br><br>■市HP<br>なし<br><br>④若者応援リーフレットの作成<br>若者を対象に今と将来に必要な情報を体系的に整理したリーフレットを作成する。作成する際、対象となる年齢層に表紙や中身に関する意見聴取を行った。<br>実施時期：令和７年12月、令和８年１月<br>参加対象：学生24人、社会人11人<br><br>■市HP<br>なし | B：市報、市SNSでの広報の他に、市立小・中学校、ASTA、及び市内高校へのポスター掲示・チラシ配付依頼など、多くの子どもに募集を認識してもらえるような広報を行った。<br>直接交渉し、大学及び庁内に配架した。 | 【自己評価理由】<br>ほっとルームレターのデザイン等に子どもの意見を取り入れた。ほっとルームレターを市全域で実施した。また、市立学校で昼の放送を行い、擁護委員の声を子どもに届けたほか、子どもの居場所に出向いて出張ほっとルームを実施した。 |
| | | | C：実施後アンケートやフィードバック資料への感想をもらう。<br>「子ども施策に対する子どもの意見を得るための手引」庁内研修のため、子どもの視点での取組評価をしていない。 | | C：ワイワイトークについて、実施後アンケートやフィードバック資料への感想をもらった。 | |
| | | （６）令和６年度からの事業変更点<br>（変更・追加など） | | （８）令和８年度事業取組予定<br>（各課事業内容からの変更点等） | （９）令和８年度への子ども・若者の視点での取組課題 | |
| | | | | ・ワイワイトークについては、実施時の子どもからの意見を活かし、日程を３日間に戻し、市の取組について学習する時間を設ける。<br>・子どもアンケートや出張アンケート、ワイワイトーク後の市職員と参加者の意見交換会を実施する。 | ・ワイワイトークの広報については、SNS活用に課題が残るため、ファシリテーターの大学生と方法を検討していく。<br>・ワイワイトークの実施後アンケートやフィードバック資料への感想をもらった後に、子どもたちと意見交換する時間がなかったため、次年度は「対話」ができる場を設ける。 | |

| 各課事業番号 | 担当課 | (1)各課事業内容 | (2)子ども(・若者)の視点での取組予定 | (3)令和7年度事業取組実績 | (4)令和7年度　子ども(・若者)の視点での取組実績 | (5)令和7年度実績の自己評価 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 計画開始年度(令和7年度)時点の事業内容 | A:事業実施にあたり、子ども・若者の意見を取り入れたり反映する予定があるか<br>B:子ども・若者に事業を知ってもらうために、広報・周知をどのように行う予定か<br>C:この事業を行うことによる子ども・若者への影響をどのように確認するか | 各課事業内容の実施詳細を記載 | A:事業実施にあたり、子ども・若者の意見をどのように聞き、反映したか<br>B:子ども・若者に事業を知ってもらうために、広報・周知をどのように行ったか<br>C:この事業を行うことによる子ども・若者への影響をどのように確認したか | 「◎」:予算の新規計上、拡充、子ども・若者の意見を反映させた事業実施ができた<br>「○」:予定どおり実施できた<br>「△」:予定していた一部が実施(達成)できた<br>「×」:実施しなかった<br>「―」:当該年度に事業予定なし |
| 2 | 子ども若者応援課（企画政策課） | ①若者ミーティング<br>若者の視点や行動力を市の取組に反映するため、若手職員とともに若者に求められる市の取組を検討する。 | A：若者の視点や行動力を市の取組に反映するため、若手職員とともに若者に求められる市の取組を検討する。 | ・若者を対象に若者ミーティングの実施を行った。若者に求められる取組の検討にあたり、若者の視点から施策の在り方についての意見聴取を行った。意見を踏まえた制度案を提示し、制度設計における協議を行った。また、若者への情報発信については表現手法や活用媒体の選定等について意見聴取を行った。<br>・若者ミーティング実施計６回<br>令和７年４月28日（月）<br>令和７年５月23日（金）<br>令和７年８月18日（月）<br>令和７年９月22日（月）<br>令和７年11月20日（木）<br>令和８年１月29日（木）<br>・広報（市SNS、市報、動画）実施計６回<br>・利用者延べ参加人数：18名<br><br>■市HP<br>https://www.city.nishitokyo.lg.jp/siseizyoho/npo_kyodo/wakamono/wakamono-R7.html | A：若手の視点や行動力を市の取組に反映するため若手職員とともに若者に求められる市の取組を検討した。 | ○ |
| | | | B：若者ミーティングのこれまでの参加者や各課でのつながりを通じた案内、各種イベントでのチラシ配布、市SNSでの広報など | | B：若者ミーティングのこれまでの参加者や各課でのつながりを通じた案内、各種イベントでのチラシ配布、市SNSでの広報、若者ミーティングPR動画をアスタビジョンへ放映などを行った | 【自己評価理由】<br>予定通り実施したため |
| | | | C：次の若者ミーティングでこれまでの振り返りを実施している | | C：次の若者ミーティングでこれまでの振り返りを行った。 | |
| | | （６）令和６年度からの事業変更点（変更・追加など） | （７）令和６年度からの課題 | （８）令和８年度事業取組予定（各課事業内容からの変更点等） | （９）令和８年度への子ども・若者の視点での取組課題 | |
| | | | | ― | ― | |
| | 担当課 | (1)各課事業内容 | (2)子ども(・若者)の視点での取組予定 | (3)令和7年度事業取組実績 | (4)令和7年度　子ども(・若者)の視点での取組実績 | (5)令和7年度実績の自己評価 |
| 3 | 企画政策課 | ①学校教育を通じた総合計画（子ども版）の普及・啓発<br>市内小学校において、総合計画（子ども版）を扱った授業を実施する。子どもたちに、総合計画を知ってもらうきっかけとすること、子どもたちが、まちづくりを考える一助とすること、<br>子どもたちから「将来どんなまちにしたいか」という意見もらうこと、子どもたちの意見を次期計画策定時に活用することを目的としている。 | A：子どもたちの意見を、次期計画策定時に活用する。 | ３年生を対象に市小研社会科部会の研究授業（けやき小学校）において実施<br><br>□12月３日（水）<br>市役所職員から市の課題を聞き、（公共施設の老朽化、空き家問題、農地の減少（農地の保全）、人口の減少など）グループで話し合う。<br><br>□12月17日（水）<br>各クラスの代表１グループが市長及び教育長に向けて、話し合った内容を発表する。<br><br>■市HP<br>なし | A：聴取した意見は、次期計画（後期計画）を策定の際に活用する。<br><br>・意見聴取方法<br>・フィードバック<br>①発表当日に代表グループに対して市長及び教育長から直接講評した。<br>②後日、市長から３年生あてに手紙を送付した。 | ○ |
| | | | B：なし | | B：なし | 【自己評価理由】<br>予定通り実施したため |
| | | | C：計画中 | | C：児童の成果発表をもって確認する。 | |
| | | （６）令和６年度からの事業変更点（変更・追加など） | （７）令和６年度からの課題 | （８）令和８年度事業取組予定（各課事業内容からの変更点等） | （９）令和８年度への子ども・若者の視点での取組課題 | |
| | | | | ― | ― | |

| 各課事業番号 | 担当課 | (1)各課事業内容<br>計画開始年度(令和7年度)時点の事業内容 | (2)子ども(・若者)の視点での取組予定<br>A:事業実施にあたり、子ども・若者の意見を取り入れたり反映する予定があるか<br>B:子ども・若者に事業を知ってもらうために、広報・周知をどのように行う予定か<br>C:この事業を行うことによる子ども・若者への影響をどのように確認するか | (3)令和7年度事業取組実績<br>各課事業内容の実施詳細を記載 | (4)令和7年度　子ども(・若者)の視点での取組実績<br>A:事業実施にあたり、子ども・若者の意見をどのように聞き、反映したか<br>B:子ども・若者に事業を知ってもらうために、広報・周知をどのように行ったか<br>C:この事業を行うことによる子ども・若者への影響をどのように確認したか | (5)令和7年度実績の自己評価<br>「◎」:予算の新規計上、拡充、子ども・若者の意見を反映させた事業実施ができた<br>「○」:予定どおり実施できた<br>「△」:予定していた一部が実施(達成)できた<br>「×」:実施しなかった<br>「―」:当該年度に事業予定なし |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 4 | 公共施設マネジメント課 | ①市内学校への出前授業を実施し、『田無第三中学校周辺エリア』を 子どもが学び、遊べる居場所としつつ、色々な世代の人が交流できる仕組みをグループ検討を通じて考える。 | A：田無第三中学校周辺エリア構想へ反映<br><br>B：学校長からの要望による実施、フィードバックを通信形式で学校へ配布するとともに、キッズページで公開予定<br><br>C：なし | ①田無第三中学校の１、２年生の生徒全員を対象に出前授業を実施した。また、授業実施後、タブレットを活用したアンケートにより意見を聴取した。<br>実施時期：令和７年12月<br>参加対象：1学年　112人、２学年　138人<br>②武蔵野大学工学部建築デザイン学科と連携し、①の意見等を踏まえた構想の将来像（コンセプト）を若者の視点によるデザイン画を制作してもらった。<br>実施時期：令和７年10月、令和８年２月<br>参加対象：３名<br>■市HP<br>https://www.city.nishitokyo.lg.jp/kosodate/kids/osusume/managementtuushin.html<br>③田無第三中学校周辺エリア構想検討懇談会<br>田無第三中学校の建替えを契機に、周辺のまちづくりを推進し、エリア構想を作成するため懇談会を設置した。その際に、若者から委員を選定。<br>実施時期：令和７年６月、令和８年２月。全８回<br>参加対象：1名<br>■市HP<br>https://www.city.nishitokyo.lg.jp/siseizyoho/sesaku_keikaku/shingikaikaigiroku/toshiseibi/tanashi3kondankai/index.html | A：田無第三中学校周辺エリア構想へ反映（①、②ともに）<br>②田無第三中学校周辺エリア構想を策定し、配布<br>③対象エリア内の各世帯へ「懇談会だより」をポスティング<br><br>B：①、②の取組を反映したちらしを作成し、田無第三中学校周辺市民に対してポスティングした（約1,500件×８回）。また、①は通信を作成し、キッズページへ掲載した。<br>②③市ホームページ<br>③キッズページで公開<br><br>C：①アンケートを実施し、授業に対する感想や今後も市の取組みに参画したいか等を確認<br>②市との大学連携の成果であるデザイン画を大学の学会等で紹介（予定） | ○<br><br>【自己評価理由】<br>本事業の今年度の到達点である「田無第三中学校周辺エリア構想」へ、子ども・若者の意見等を反映し、構想の内容も想定以上の完成度となった。 |
| | | （６）令和６年度からの事業変更点<br>（変更・追加など） | （７）令和６年度からの課題 | （８）令和８年度事業取組予定<br>（各課事業内容からの変更点等） | （９）令和８年度への子ども・若者の視点での取組課題 | |
| | | | | 「学校を核としたまちづくり」を全市的にPRするための若者参画。若者の柔軟な発想をSNSや動画に取り入れつつ、新たなまちづくりとして浸透させる。 | 市に様々な媒体があるが、媒体ごとにターゲットやフォロワーが異なる。また、全市的に普及啓発をするためブランディングを意識した発信が必要である。 | |
| | 担当課 | (1)各課事業内容 | (2)子ども(・若者)の視点での取組予定 | (3)令和7年度事業取組実績 | (4)令和7年度　子ども(・若者)の視点での取組実績 | (5)令和7年度実績の自己評価 |
| 5 | 高齢者支援課 | ①認知症について、若年層に理解してもらうため、お祭り「オレンジフェス」を開催する。「認知症を知るきっかけ作り」「認知症の正しい理解」「認知症のある方の社会参加」をテーマに、「認知症を知るきっかけづくり」について、武蔵野大学の学生と企画・立案、実施する。 | A：なし<br><br>B：市内公共施設や市掲示板へのチラシ・ポスター掲示、市報・HP・SNSにて周知、<br>市内近隣小中学校へのチラシ配布<br><br>C：なし | ・小学生とその保護者を対象に、認知症についての理解を深めるために、イベントの企画やプレゼントの配布<br>・オレンジロバのプラバン作り、認知症を楽しく知るためのブースめぐりのスタンプラリー、ひとり歩き高齢者位置探索のGPSを使った人探し、市内小学校に発信した認知症を正しく伝える猫のキャラクター名応募による、発表と市長からの記念品授与式等<br>・予定通り実施。当日、小学生から大学生の若者は、概ね400名程度来所した<br>実施時期：令和7年９月27日（土）<br>参加対象；企画の学生は4名、当日手伝いの学生は12名<br>■市HP<br>https://www.city.nishitokyo.lg.jp/kenko_hukusi/koreisyasien/ninchisyoukanren/orangefes.html | A：オレンジフェス企画時から、学生独自で作成したキャラクターを使ったチラシ、ポスター、スタンプラリーカードのミニバック、缶バッチを制作。当日参加者に認知症への思いを一言付箋に貼り、大きな本を作成。その中からいくつか選び、トランプを制作。児童館・学童へ配布<br>チラシ、グッズ、物品の企画作成費用の支払い<br><br>B：市内公共施設や市掲示板へのチラシ・ポスター掲示、市報・HP・SNSにて周知、<br>市立小学校へのチラシ配布、武蔵野大学の学生へ直接依頼、武蔵野大学の学生へ直接依頼<br><br>C：参加した小学生から認知症のクイズに答えてもらい「わかった！」という声や、実際に認知症の当事者から直接話しを伺い、うなずいている様子などがみられた。 | ◎<br><br>【自己評価理由】<br>・新規で、小学生向けに認知症のキャラクター名の募集チラシを配布し、593件の応募があった。もの忘れ予防検診のラッピングバスにもキャラクターがあり、多くの小学生が関心を持ってくれた。<br>・オレンジフェスで子ども向けのブースを設置し、普段の生活では聞きなれない「認知症」について、楽しく学ぶことができた。 |
| | | （６）令和６年度からの事業変更点<br>（変更・追加など） | （７）令和６年度からの課題 | （８）令和８年度事業取組予定<br>（各課事業内容からの変更点等） | （９）令和８年度への子ども・若者の視点での取組課題 | |
| | | | | 未定 | ・「認知症」について、どのように子どもの視点で、必要性を認識し、意識の改善ができるか | |

| 各課事業番号 | 担当課 | (1)各課事業内容<br>計画開始年度(令和7年度)時点の事業内容 | (2)子ども(・若者)の視点での取組予定<br>A:事業実施にあたり、子ども・若者の意見を取り入れたり反映する予定があるか<br>B:子ども・若者に事業を知ってもらうために、広報・周知をどのように行う予定か<br>C:この事業を行うことによる子ども・若者への影響をどのように確認するか | (3)令和7年度事業取組実績<br>各課事業内容の実施詳細を記載 | (4)令和7年度　子ども(・若者)の視点での取組実績<br>A:事業実施にあたり、子ども・若者の意見をどのように聞き、反映したか<br>B:子ども・若者に事業を知ってもらうために、広報・周知をどのように行ったか<br>C:この事業を行うことによる子ども・若者への影響をどのように確認したか | (5)令和7年度実績の自己評価<br>「◎」:予算の新規計上、拡充、子ども・若者の意見を反映させた事業実施ができた<br>「○」:予定どおり実施できた<br>「△」:予定していた一部が実施(達成)できた<br>「×」:実施しなかった<br>「―」:当該年度に事業予定なし |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 6 | 幼児教育・保育課 | ①保育園での日常の遊び・活動等を決める際の、園児による自由な意見交換を行う。 | A：保育園での毎日の活動の決定、散歩先の決定<br>B：連絡帳やクラスだより等で保護者等へ報告<br>C：なし | 日常保育における聴き取り<br>日常の遊び・活動等を決める際の、園児による自由な意見交換<br>実施時期：ほぼ毎日<br>参加対象：各保育園の園児数<br><br>■市HP<br>なし | A：日々の保育の中で実行する<br>B：連絡帳やクラスだより等で報告<br>C：<br>― | ○<br>【自己評価理由】<br>― |
| | | （6）令和６年度からの事業変更点（変更・追加など）<br>／ | （7）令和６年度からの課題<br>／ | （8）令和８年度事業取組予定（各課事業内容からの変更点等）<br>― | （9）令和８年度への子ども・若者の視点での取組課題<br>― | |
| | 担当課 | (1)各課事業内容 | (2)子ども(・若者)の視点での取組予定 | (3)令和7年度事業取組実績 | (4)令和7年度　子ども(・若者)の視点での取組実績 | (5)令和7年度実績の自己評価 |
| 7 | 児童青少年課 | ①田無柳沢児童センターの改修について、中高生特化型児童館として機能を持たせるために、ワークショップ形式等で中高生委員に、機能案を検討予定 | A：改修状況を共有しHPに掲載、田無柳沢児童センターの改修に反映<br>B：各児童館でポスター等掲載<br>C：なし | ワークショップ形式で中高生委員が田無柳沢児童センターの機能案を検討を行った。また、他市の中高生特化型児童館を視察し、運営方法や中高生の参画のモデルを学び、改修案の参考とした。<br>第一回　令和７年９月<br>第二回　令和７年１０月<br>第三回　令和７年１２月（視察）<br>第四回　令和８年２月<br><br>■市HP<br><br>https://www.city.nishitokyo.lg.jp/kosodate/zidokan_zidocenter/junior-senior_high_school/jyunbikai.html | A：ワークショップを行う中で、他市の視察はとても参考になり、中高生の居場所をつくるための機能案を検討出来た。<br>B：児童館長たちに機能案を聞いてもらい、今後の中高生特化型児童館の発信方法を検討出来た。<br>C：<br>― | ○<br>【自己評価理由】機能案を考える上で、他市の視察を行い、運営方法や中高生の参画方法を参考にし、ワークショップでは多くの機能案を考えることが出来た。 |
| | | （6）令和６年度からの事業変更点（変更・追加など）<br>／ | （7）令和６年度からの課題<br>／ | （8）令和８年度事業取組予定（各課事業内容からの変更点等）<br>ワークショップで考えた機能案をもとに改修を実施する。 | （9）令和８年度への子ども・若者の視点での取組課題<br>ワークショップで考えた機能案が児童館の改修に反映されることを発信していきたい。 | |

| 各課事業番号 | 担当課 | (1)各課事業内容<br>計画開始年度(令和7年度)時点の事業内容 | (2)子ども(・若者)の視点での取組予定<br>A:事業実施にあたり、子ども・若者の意見を取り入れたり反映する予定があるか<br>B:子ども・若者に事業を知ってもらうために、広報・周知をどのように行う予定か<br>C:この事業を行うことによる子ども・若者への影響をどのように確認するか | (3)令和7年度事業取組実績<br>各課事業内容の実施詳細を記載 | (4)令和7年度　子ども(・若者)の視点での取組実績<br>A:事業実施にあたり、子ども・若者の意見をどのように聞き、反映したか<br>B:子ども・若者に事業を知ってもらうために、広報・周知をどのように行ったか<br>C:この事業を行うことによる子ども・若者への影響をどのように確認したか | (5)令和7年度実績の自己評価<br>「◎」:予算の新規計上、拡充、子ども・若者の意見を反映させた事業実施ができた<br>「○」:予定どおり実施できた<br>「△」:予定していた一部が実施(達成)できた<br>「×」:実施しなかった<br>「―」:当該年度に事業予定なし |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 8 | 文化振興課 | ①イベントの企画・運営の検討資料として、イベントの満足度等を把握するアンケート調査を行う。 | A：今後の事業の実施の際に反映予定 | ・多摩六都フェア「パラアート制作ワークショップ」受講生（中・高校生）を対象に実施。<br>実施時期：令和７年８月～９月<br>参加対象：対象：圏域５市に在住・在学の中・高生で障害のある方<br><br>■市HP<br>https://www.city.nishitokyo.lg.jp/enjoy/bunkageijutushinkou/tamarokutofair/R7paraart_houkoku.html<br><br>②「日本の文化体験フェス」 in 市民文化祭参加者（小学校１年生以上）を対象に実施。<br>実施時期：令和７年10月～11月<br>参加対象：対象：市内・在住・在勤で各体験対象年齢以上<br><br>■市HP<br>https://www.city.nishitokyo.lg.jp/enjoy/bunkasai/index/kakubu_houkoku/r7/R7dentoubunka_houkoku.html<br><br>③「対話による美術鑑賞」事業に係る地域活動<br>実施時期：年２～３回<br>参加対象：対象：栄小学校児童・保護者・地域の方<br>ほか<br><br>■市HP（2026年6月18日）<br>https://www.city.nishitokyo.lg.jp/enjoy/bunkageijutushinkou/taiwa.html<br><br>④世界でひとつ。あなただけの口ゴマークを作ろう。<br>実施時期：令和７年８月24日（日）<br>参加対象：市内在住・在学の小学生・中学生<br><br>■市HP<br>なし | A：各事業にてアンケートを実施。事業の運営を委託している委託事業者や、市民文化祭の役員へフィードバックを行い、今後の事業実施の際に反映予定。 | ○ |
| | | | B：イベント開催時にアンケート依頼 | | B：市報・市HP・SNSでの周知、市内公共施設や小中学校へのチラシ配布等<br><br>①～④すべてイベント開催時にアンケート依頼 | 【自己評価理由】<br>各事業の実施にあたり、予定通り受講生や参加者にアンケート調査を行い、関係者へフィードバックを行うことができたため。 |
| | | | C：なし | | C：なし | |
| | | （6）令和６年度からの事業変更点<br>（変更・追加など） | （7）令和６年度からの課題 | （8）令和８年度事業取組予定<br>（各課事業内容からの変更点等） | （9）令和８年度への子ども・若者の視点での取組課題 | |
| | | | | ― | 受講生・参加者全員からの回答は得られていないため、より多くの意見を聴取できるようアンケートの回答を促す。 | |
| | 担当課 | (1)各課事業内容 | (2)子ども(・若者)の視点での取組予定 | (3)令和7年度事業取組実績 | (4)令和7年度　子ども(・若者)の視点での取組実績 | (5)令和7年度実績の自己評価 |
| 9 | スポーツ振興課 | ①幼少期の子どもたちに必要な動作や技能をボールを使った運動・あそびを中心に楽しく習得できるイベント「あそビバ！」を実施し、実施後にアンケートを行う。 | A：今後の実施する事業へ反映 | 昨年度、指定管理者で実施した「あそビバ！」実施はしなかったものの、早早稲田大学校友会が主催する硬式野球場や軟式野球場を春・秋・冬に「あそび場※」として開放する事業に関するチラシを市内公立小学校に配布した。<br>※野球あそび、鬼ごっこ、ボッチャ等<br><br>■市HP<br>なし | A：普段、ボールが使用できる公園等が少ないことから、広い野球場でボール遊びができる環境は、子ども（・若者）にとっては、学生（若者）の指導のもと、のびのびボール遊びや走り回ろことができる貴重な場となった。 | ○ |
| | | | B：スポーツ施設でのチラシ配布や、スポーツセンター、総合体育館、きらっと各施設のLINEでの周知 | | B：事業の対象が小学生であるため、チラシを市内公立小学校に配布したことは、非常に効果的であった。 | 【自己評価理由】<br>市の事業だけでなく、こうした民間の取り組みを活用し、子ども（・若者）が主体的に活動できる場は貴重であると認識している。引き続き、大学と連携し、子ども（・若者）が楽しめる種目等を直接聞く機会を設けながら、今後の事業に生かしていきたいと考える。 |
| | | | C：なし | | C：第２期西東京市スポーツ推進計画の施策にひとつに、「子どもスポーツ推進」を掲げており、スポーツ実施率の向上を目指しているため、こうした普段とりくむことができない環境を提供することで、スポーツの楽しみを感じる機会につながることを今後も期待する。 | |
| | | （6）令和６年度からの事業変更点<br>（変更・追加など） | （7）令和６年度からの課題 | （8）令和８年度事業取組予定<br>（各課事業内容からの変更点等） | （9）令和８年度への子ども・若者の視点での取組課題 | |
| | | | | ― | ボールが使用できる公園等が少ないという意見もあることから、広い敷地で様々な遊びができる環境は、子ども（・若者）に取っては、生涯健康で過ごすために重要な課題と認識している。 | |

| 各課事業番号 | 担当課 | (1)各課事業内容<br>計画開始年度(令和7年度)時点の事業内容 | (2)子ども(・若者)の視点での取組予定<br>A:事業実施にあたり、子ども・若者の意見を取り入れたり反映する予定があるか<br>B:子ども・若者に事業を知ってもらうために、広報・周知をどのように行う予定か<br>C:この事業を行うことによる子ども・若者への影響をどのように確認するか | (3)令和7年度事業取組実績<br>各課事業内容の実施詳細を記載 | (4)令和7年度　子ども(・若者)の視点での取組実績<br>A:事業実施にあたり、子ども・若者の意見をどのように聞き、反映したか<br>B:子ども・若者に事業を知ってもらうために、広報・周知をどのように行ったか<br>C:この事業を行うことによる子ども・若者への影響をどのように確認したか | (5)令和7年度実績の自己評価<br>「◎」:予算の新規計上、拡充、子ども・若者の意見を反映させた事業実施ができた<br>「○」:予定どおり実施できた<br>「△」:予定していた一部が実施(達成)できた<br>「×」:実施しなかった<br>「―」:当該年度に事業予定なし |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 10 | 教育指導課 | ①（仮称）西東京市特別支援教育推進計画アンケートとして、西東京市の特別支援教育について小・中学生に聞き取る。 | A：計画に反映 | ・西東京市立小・中学校に通う小学２年年生・４年生・６年生、中学２年生を対象にアンケートを実施した。対象者6,417人のうち、4,464人の回答があった。<br><br>・西東京市立小・中学校に通う児童・生徒に対して、「西東京市の学校生活についてのアンケート」として意見聴取を行った。<br>実施時期：令和７年10月から１１月まで<br>参加対象：①西東市立小学校の通常の学級に在籍する２年生・４年生・６年生児童3,441人<br>②西東京市立中学校の通常の学級に在籍する２年生生徒866人<br>③西東京市立小学校の特別支援学級に在籍する２年生・４年生・６年生児童123人<br>④西東京市立中学校の特別支援学級に在籍する２年生生徒34人<br><br>■市HP<br>なし | A：子どもの意見を参考に計画を策定する。アンケート結果について調査報告書として計画策定後に公表する予定。<br><br>アンケート調査報告書として公表する予定。 | ○ |
| | | | B：学校を経由して周知する。（保護者へはメールで配信） | | B：学校を通してアンケートを周知した。<br><br>西東京市立小・中学校にて、学校を通して児童・生徒に周知 | 【自己評価理由】<br>アンケート内容について校長会とも調整し、小・中学生が回答しやすい設問・選択肢の設定を行った。<br>小・中学生にアンケート趣旨を説明するために学級担任向けの説明資料を作成し学校に配布した。<br>当初の予定通り、アンケートを実施することができた。 |
| | | | C：なし | | C：次期計画策定時に同様のアンケートを実施し影響を評価する予定。 | |
| | | （６）令和６年度からの事業変更点<br>（変更・追加など） | （７）令和６年度からの課題 | （８）令和８年度事業取組予定<br>（各課事業内容からの変更点等） | （９）令和８年度への子ども・若者の視点での取組課題 | |
| | | | | ― | ― | |
| | 担当課 | (1)各課事業内容 | (2)子ども(・若者)の視点での取組予定 | (3)令和7年度事業取組実績 | (4)令和7年度　子ども(・若者)の視点での取組実績 | (5)令和7年度実績の自己評価 |
| 11 | 教育支援課 | ①スキップ教室（教育支援センター）に通室している児童・生徒に対して、スキップ教室で過ごした１年を振り返ってのアンケート調査を実施する。 | A：スキップ教室の事業運営に反映させる。 | スキップ教室（教育支援センター）に通室している児童・生徒に対して、スキップ教室で過ごした１年を振り返ってのアンケート調査を実施した。<br>７月には東京都子供政策連携室からの調査協力依頼のため、教育支援センター等を利用する不登校の小学校低学年の児童に、利用している教育支援センター等の居心地、落ち着ける場所はどんな場所か、集団生活などについて一部生徒にヒアリングを行った。<br><br>■市HP<br>なし<br><br>②スキップ教室での生活を振り返って<br>スキップ教室（教育支援センター）に通室している児童・生徒に対して、スキップ教室で過ごした１年を振り返ってのアンケート調査<br>実施時期：令和８年３月<br>参加対象：スキップ田無教室通室児童・生徒、スキップ保谷教室通室児童・生徒<br><br>■市HP<br>なし | A：スキップ教室の事業運営に反映させる。<br><br>②次年度以降のスキップ教室の事業の中で伝える。 | ○ |
| | | | B：スキップ教室指導員より対象者へ配布するため、全体周知なし。 | | B：スキップ教室指導員より対象者へ配布した。<br><br>②各スキップ教室にてスキップ教室指導員より対象者へ配布 | 【自己評価理由】<br>予定どおり実施できたため。 |
| | | | C：なし | | C：なし | |
| | | （６）令和６年度からの事業変更点<br>（変更・追加など） | （７）令和６年度からの課題 | （８）令和８年度事業取組予定<br>（各課事業内容からの変更点等） | （９）令和８年度への子ども・若者の視点での取組課題 | |
| | | | | なし | 特になし | |

| 各課事業番号 | 担当課 | (1)各課事業内容<br>計画開始年度(令和7年度)時点の事業内容 | (2)子ども(・若者)の視点での取組予定<br>A:事業実施にあたり、子ども・若者の意見を取り入れたり反映する予定があるか<br>B:子ども・若者に事業を知ってもらうために、広報・周知をどのように行う予定か<br>C:この事業を行うことによる子ども・若者への影響をどのように確認するか | (3)令和7年度事業取組実績<br>各課事業内容の実施詳細を記載 | (4)令和7年度　子ども(・若者)の視点での取組実績<br>A:事業実施にあたり、子ども・若者の意見をどのように聞き、反映したか<br>B:子ども・若者に事業を知ってもらうために、広報・周知をどのように行ったか<br>C:この事業を行うことによる子ども・若者への影響をどのように確認したか | (5)令和7年度実績の自己評価<br>「◎」:予算の新規計上、拡充、子ども・若者の意見を反映させた事業実施ができた<br>「○」:予定どおり実施できた<br>「△」:予定していた一部が実施(達成)できた<br>「×」:実施しなかった<br>「―」:当該年度に事業予定なし |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 12 | 地域学習推進課 | ①下野谷遺跡の史跡指定１０周年を記念したシンポジウムの企画について意見をまとめ、シンポジウム当日の運営にも参加してもらう。<br><br>②将来建設を考えている地域博物館に関する意見を集めるため、ワークショップを行う。詳細な手法は未定。 | A：下野谷遺跡を活用した教育、まちづくりの施策や計画に反映する。構想・計画に反映 | ①記念講演「なぜ今下野谷遺跡か。パブリックアーケオロジーの現在」・基調講演２本・報告３本（報告には市立小学校児童による発表も含む）・パネルディスカッション「したのや縄文の里を未来につなぐ」講師・パネラーには大学生が含まれる。<br>来場者数は256人であった。<br><br>■市HP<br>https://www.city.nishitokyo.lg.jp/enjoy/rekishi_bunka/rekishi_bunka2/sitanoya10th/shitanoya10th_symposium.html | A：若者からいただいた意見をもとに、地域博物館のあり方について、地域博物館部内ＰＴなどにおける検討課題にあげた<br>③実行委員会の中で出た意見について、可能なものについては、二十歳のつどい事業に反映する。 | ○ |
| | | | B：これまでの下野谷遺跡や文化財に関わる活動の参加団体や個人に個別声掛け、したのやムラびとへの声掛け、市報で公募<br>これまでの下野谷遺跡に関わる活動の参加団体や個人に個別声掛け | ②シンポジウムは大学生による検討会を土台に企画した。シンポジウムの準備や当日の解説等も大学生が担当した。<br><br>■市HP<br>https://www.city.nishitokyo.lg.jp/enjoy/rekishi_bunka/rekishi_bunka2/sitanoya10th/shitanoya10th_symposium.html<br><br>③二十歳のつどい実行委員会<br>二十歳のつどい式典への意見出し等を行う。<br>実施時期：９月頃～１２月頃<br>（２ヶ月に１回程度）<br>参加対象：市内在住の20歳または市立小中学校卒業者で式典の参加を希望する20歳<br><br>■市HP<br>https://www.city.nishitokyo.lg.jp/enjoy/seijinshiki/r8hatachi_zikkoin.html | B：ＳＮＳなどによる広報のほか、小中学校に対しては、チラシ・ポスターの掲示を依頼した。<br>また、下野谷遺跡現地にて、掲示板やガイドモニターによる広報を実施する。<br>③市報・HP・SNS | 【自己評価理由】<br>予定どおり実施できたため。 |
| | | | C：なし | | C：シンポジウム後、参加いただいた大学生等にアンケートを実施 | |
| | | （６）令和６年度からの事業変更点<br>（変更・追加など） | （７）令和６年度からの課題 | （８）令和８年度事業取組予定<br>（各課事業内容からの変更点等） | （９）令和８年度への子ども・若者の視点での取組課題 | |
| | | | | ①については、令和７年度のみの実施となる。 | 大学生に対しては大きなつながりをつけた。小中学校に対して、接点を増やしていきたい。 | |
| | 担当課 | (1)各課事業内容 | (2)子ども(・若者)の視点での取組予定 | (3)令和7年度事業取組実績 | (4)令和7年度　子ども(・若者)の視点での取組実績 | (5)令和7年度実績の自己評価 |
| 13 | 教育企画課 | 令和７年度取組予定策定時には記載していなかった | A：<br>― | ・学校の適正規模に関するアンケート<br>小学生、中学生を対象に、小・中学校の規模（児童・生徒数やクラス数）について意見聴取を行った。<br>実施時期：令和８年１月20日（火）～２月４日（水）<br>参加対象：市立小学校の通常学級に通学している児童（３年生以上）<br>市立中学校の通常学級に通学している生徒（全学年）<br><br>■市HP<br>なし | A：基本方針に反映 | ◎ |
| | | | B：<br>― | | B：<br>― | 【自己評価理由】<br>令和７年度取組予定策定時には予定していなかった内容を実施 |
| | | | C：<br>― | | C：<br>― | |
| | | （６）令和６年度からの事業変更点<br>（変更・追加など） | （７）令和６年度からの課題 | （８）令和８年度事業取組予定<br>（各課事業内容からの変更点等） | （９）令和８年度への子ども・若者の視点での取組課題 | |
| | | | | ― | ― | |

| 各課事業番号 | 担当課 | (1)各課事業内容 | (2)子ども(・若者)の視点での取組予定 | (3)令和7年度事業取組実績 | (4)令和7年度　子ども(・若者)の視点での取組実績 | (5)令和7年度実績の自己評価 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 計画開始年度(令和7年度)時点の事業内容 | A:事業実施にあたり、子ども・若者の意見を取り入れたり反映する予定があるか<br>B:子ども・若者に事業を知ってもらうために、広報・周知をどのように行う予定か<br>C:この事業を行うことによる子ども・若者への影響をどのように確認するか | 各課事業内容の実施詳細を記載 | A:事業実施にあたり、子ども・若者の意見をどのように聞き、反映したか<br>B:子ども・若者に事業を知ってもらうために、広報・周知をどのように行ったか<br>C:この事業を行うことによる子ども・若者への影響をどのように確認したか | 「◎」:予算の新規計上、拡充、子ども・若者の意見を反映させた事業実施ができた<br>「○」:予定どおり実施できた<br>「△」:予定していた一部が実施(達成)できた<br>「×」:実施しなかった<br>「―」:当該年度に事業予定なし |
| 14 | 協働コミュニティ課 | 令和７年度取組予定策定時には記載していなかった | A：<br>― | 中学校の家庭科授業で消費者教育<br>消費生活を題材にした家庭科の授業のカリキュラムの中で、消費者センターから市内の消費者トラブルについて講義を実施。講義を受け、生徒は消費者トラブルに遭わないための課題を設定し、課題解決に向けて調べたことを班ごとに発表。<br>実施時期：令和８年１月～３月<br>参加対象：ひばりが丘中学校１年生<br><br>■市HP<br>https://www.city.nishitokyo.lg.jp/kurasi/syohi/osirase/class2025.html | A：・発表時に消費者センターがコメント。<br>・発表された成果物（ポスター）の一部を氏ホームページに掲載。 | ◎ |
| | | | B：<br>― | | B：中学校より依頼 | 【自己評価理由】<br>令和７年度取組予定策定時には予定していなかった内容を実施 |
| | | | C：<br>― | | C：<br>― | |
| | | （６）令和６年度からの事業変更点<br>（変更・追加など） | （７）令和６年度からの課題 | （８）令和８年度事業取組予定<br>（各課事業内容からの変更点等） | （９）令和８年度への子ども・若者の視点での取組課題 | |
| | | | | ― | ― | |
| | 担当課 | (1)各課事業内容 | (2)子ども(・若者)の視点での取組予定 | (3)令和7年度事業取組実績 | (4)令和7年度　子ども(・若者)の視点での取組実績 | (5)令和7年度実績の自己評価 |
| 15 | 資源循環推進課 | 令和７年度取組予定策定時には記載していなかった | A：<br>― | ①ごみ拾いイベント<br>児童会・生徒会が主催となって、地域の方々とごみ拾いを実施すると共に、環境学習を行う。<br>実施時期：11月（年１回）<br>参加対象：未就学児から80代まで120人が参加<br><br>■市HP<br>https://www.city.nishitokyo.lg.jp/kurasi/gomi_recycle/study_etc/gomihi-rou.html<br><br>②資源循環サミット<br>高校生が西東京市の環境・資源循環、その他の問題解決に主体的に取り組みを進める。<br>実施時期：令和８年３月<br>参加対象：市内高校５校生徒<br><br>※重点③1-2-1-1子ども参画による事業運営の推進にも掲載<br><br>■市HP<br>https://www.city.nishitokyo.lg.jp/kurasi/gomi_recycle/gomi_machi/samitto.html | A：①ECO羅針盤やHPで市民周知<br>②各高校に報告書で周知 | ◎ |
| | | | B：<br>― | | B：①市報やHP<br>②直接交渉 | 【自己評価理由】<br>令和７年度取組予定策定時には予定していなかった内容を実施 |
| | | | C：<br>― | | C：<br>― | |
| | | （６）令和６年度からの事業変更点<br>（変更・追加など） | （７）令和６年度からの課題 | （８）令和８年度事業取組予定<br>（各課事業内容からの変更点等） | （９）令和８年度への子ども・若者の視点での取組課題 | |
| | | | | ― | ― | |